

1 令和5年度第2回定例会

日 時： 令和5年7月21日（金）午後2時30分から午後4時00分

場 所： 中央図書館活動室2・3

出席者： （図書館協議会委員）委員6名
（事務局）図書館長、中央図書館整備担当課長、
企画運営担当主査、総務担当主査

会長 本日は委員1名が欠席である。多摩市図書館協議会規則第4条により令和5年度多摩市図書館協議会第2回定例会を開催する。

事務局から配布資料の確認をする。

事務局 配布資料確認。

会長 議題1 令和4年度図書館事業評価について、事務局から説明をお願いする。

図書館長 資料2-1 令和4年度多摩市立図書館事業評価（自己評価）である。本日は、5項目の評価項目のうち、2項目を協議いただく。当初の計画では、すべての項目を説明し、2項目の協議となっていたが、本日協議いただく、2項目の説明とする。前回の協議会でお配りした令和4年度多摩市立図書館事業計画実施報告に細かい数値なども入っているので合わせて見ていただきたい。一つ目の評価項目「より利用しやすくするための配慮」で①から④の取り組みがある。実施結果については、①親子で利用しやすい子ども図書室、児童コーナーとなるよう取り組むについては各館がそれぞれの設備の中で書架の表示を変更したり、分類の説明などをわかりやすく掲示したりして、子どもたちに本が探しやすいようにした。中でも永山図書館では子育て情報コーナーについては大きくリニューアルし、棚を増やし、選書する本の対象も妊婦から子どもが小学生くらいまでの保護者だったが子どもが18歳くらいまでの保護者というように広げ、幅広い保護者の方に本をみていただけるようにした。②図書館サービスや事業計画に意見を反映できるよう利用者アンケート方法を調査、検討するは、次の計画策定のための利用者アンケートの方法等は検討できなかった。図書館で実施しているイベント等で満足度や改善点を知るためのアンケートは実施しその内容をまとめている。③図書館利用者だけでなく、図書館

を利用していない市民にも参加してもらえらる講座等を実施し、図書館の認知度を上げるは、高齢者向けやティーンズ対象、子ども対象のイベント等を実施した。多摩センター地区活性化イベントに参加し、ハロウィンのイベントに合わせて実施したが、非常に多くの来館者があり、中央図書館の開館についてもお知らせができた。大きなイベントにタイムリーに参加するということが重要であると考えている。④障がい者サービスの充実は令和3年度から準備をしていたが、障がい者サービス実施要綱改正を行い、障がい者サービスに登録できる方の範囲を広げた。テキストデイジー図書作成・貸出を開始した。また、障がい者サービスの窓口は永山図書館が中心であったが、基本的な最初の受付が全館でできるように職員向けの研修を実施し、全館での受付ができるようにした。それに対する図書館の自己評価は4ページである。各館の棚、書架表示等の工夫をしていく中で、図書館訪問などでも非常に本が見やすくなったという声はいただいているが数値には表せないが利用につながることができた。2点目としては、計画の策定に向けての利用者アンケートの方法の調査、検討についてであるが中央図書館の開館準備と並行して計画的に検討すべきであったというところがしっかりとできなかった。イベントに関しては、幅広く図書館を利用してもらおうというところで進めてきたが、ハロウィンのイベントに参加し、非常に多く周知ができたと評価している。障がい者サービスについては、先ほど申し上げたように必要なかたへのサービスを広げていくというところで今まで登録のなかった発達障害の方の登録につながったのでさらに広げていきたい。

図書館長

基本目標(2)子どもへのサービスの充実の取り組み4の評価項目について、説明する。評価項目は、「第三次子どもの読書活動推進計画の推進」である。毎年度評価いただいているが、子どもの読書の計画があるので、それをしっかりと進めていくということである。令和4年度に関しては、5ページにある①から⑨までを取り組んできた。特に②ブックリストの作成、改訂はこれまで計画的に実施しており、5年生の改訂を行うことができた。学校に配付し、ブックリストに掲載の本も購入し、読んでいただける体制をとった。③外国語資料、多文化に対応した資料の充実、提供を進めるは、電子書籍の購入をしている。④幼稚園、保育園の園児を対象とする市立図書館のPRをするとともに保育園、幼稚園のセット貸出の実施に向けてアンケー

トを実施し、ニーズを把握するについては、計画的に実施し、準備を進めた。希望に合わせて、30冊程度の本をこれから貸し出す。⑤児童館、学童クラブとの連携を進めるは、新規の事業として実施した。アンケートの結果としては好評であった。⑥中学生にむけての市立図書館のPRということで広報誌の発行をし、中学校と高校生向けということで学校を經由して配付をした。⑦支援の必要な子どもたちへの新たな取り組みのために関係課、機関との連携を進めるについては、発達支援室との意見交換とひまわり教室の保護者会で図書館の使い方やさまざまな障がい者の方向けの資料などもPRでき、直接、保護者の方にアプローチすることができた。⑧各館でおはなし会やイベントを行い、図書館に来館するきっかけ作りを行うについては、表にお示ししたとおりである。⑨教職員向けに図書館の利用案内を配布については、第三次計画のアクションプランというのがあり、それを計画的に進めていくことができていると評価している。また、ブックリストも計画的に改訂ができた。電子図書館については、電子書籍の英語の多読の本を購入した。幼稚園と保育園のセット貸出を行うことについても計画的に実施ができた。出張おはなし会については、アンケート結果では好評で、今後も継続して実施していく。「多摩市立図書館ニュース」を新たに発行した。市内では、都立の特別支援学校と永山高校に配付し、利用者登録の用紙も併せて配布し、結果として、永山高校の学校図書館司書の方から5枚登録してほしいと連絡をいただいた。利用者カードの登録につながり、PRができた。そのほかには各館でおはなし会やイベントを実施した。

会長

今回は基本目標（1）と（2）を協議する。（1）と（2）は項目数が多い。（3）と（4）と（5）はページ数は多いが項目は少ない。評価をしていく中で、ここはよかったとか工夫してほしかったとか評価につながる発言をいただければと思う。今回は事業の実施報告と図書館の自己評価の二つがあるのでそれについてご意見等をいただきたい。まず、取り組み1についていかがか。

会長

【取り組み1】より利用しやすくするための配慮
「第二次読書活動推進計画（仮）」の策定準備はどうしてできなかったのか。

図書館長

開館に向けての準備のため、できなかった。当初の予定では令

和 4 年度の秋以降でアンケート調査したかった。計画性がなかった。

会長 永山図書館の子育て情報コーナーのリニューアルはよくできている。

図書館長 子育ての輪っかというスペースを設けた。結果として、ブックリストを作成し、選書の対象も拡大し、成果を得られた。電子書籍でも特集のコーナーを組んで照会した。想定よりうまくいった。

委員 永山図書館のリニューアルしたエリアは、すごくよい。子どもといっしょに行くと絵本のコーナーに行くので、その近くに子育ての雑誌やチラシなどがあり、一緒でも利用できよくなったと感じている。

会長 興味があるから数字にもつながっているのではないか。

図書館長 面出しの本はなくなっているが、そのエリアだけの貸出数を出すのは難しい。

委員 障がい者サービスの利用登録を永山図書館でしかしていなかったが、全館でできるようになったことは、良かった。もっと早くできてよかった。

委員 実施結果のあとに自己評価がかいてあるが、自己評価の文書はほぼ実施結果と一緒にある。それはどうなのかと思った。

① の実施結果に子どもたちが自ら本を探せるように分類等の説明をわかりやすく掲示したというところはとても大事であると思う。子どもが沢山来るようになった一方、日本語を母語としない親に育てられた子もいると思う。子育てのところにも例えば中国語でも案内を出すとかできれば、そのような親子も楽しめるのではないか。

どんな国の人にも入ってもらえる図書館になるとよい。

障がい者サービスについてもよく取り組まれていると思う。

図書館長 今回、まとめるにあたって、指摘のとおりであり、反省している。「自己評価」どうしていくかが、いつも話題になる。実績報告に基づき、自己評価をするほうがいいのではないかと考えている。教育委員会でも評価をしているが、細かい資料を渡したり、個別にヒアリングをして評価している。今後計画を策定していく中で、評価の仕方も検討していきたい。

会長 書き方に苦労しているのは、見受けられるが、いつもエビデンスがない。

- 委員 図書館を知ってもらうためにいろいろな取り組みをしていると思う。「お話の会」は「絵本の読み聞かせ」とは違うのかなとか初心者目線からだと疑問がある。具体的な取り組みが書いてあるとわかりやすいと思う。
- 図書館長 「ボードゲーム&おりがみで遊ぼう」はパルテノンにオリブができたことによってコラボしたイベントである。今後も発展させていくといいと思う。
- 副会長 評価項目＝目標、実施結果、自己評価は差異であると思う。例えば、③の目標について、実施結果はたくさんイベントに参加している。そこで評価として、普段図書館を利用していない市民に利用していただくことができたとあるが、本当にそうか？例えば、自分の参加した図書館カフェに参加していたのは、図書館のヘビーユーザーであった。評価につながる実施結果をとっていかないといけないだろう。
- 図書館長 同じイベントでも評価項目によって、視点が違う。
- 図書館長 評価をまとめていくにあたって、これだけのイベントをやっている中で、一つ一つを深堀するところまで、できていない。
- 会長 事業の数は非常にたくさんやっている。事業を実施すること自体が目標なのか、実施したことによる効果を見るのかということ、つまり結果は目論見通りにいったのかということところが重要である。
- 図書館長 「ほんともスタンプラリー」はどこをまわったのか。
- 図書館長 「ほんともスタンプラリー」は各館をまわっている、対象はだれでもよい。スタンプラリーの用紙のQRコードを読むとクイズができたりする。東寺方図書館などは、普段子どもの利用が少ないが、その時は来館が多かった。カードは実際に用意していた数では足りなくなってしまった。
- 副会長 普段いっているところ以外にいったのかどうかがわかるような工夫をしてもよかったのではないか。
- 図書館長 今回は何回いったかとかではなく、図書館に行ってもらって、そこで本を借りてもらってということで今回の手法をとった。
- 委員 限られた人でこれだけのイベントをするのは、大変だと思う。これからもやってほしいというのも評価になるか。精一杯のところでもやられたのではないかと思う。
- 会長 表現だけでいえば、これまで登録のなかった人から障がい者サービスの登録があったということは、成果である。障がい者サービスの充実ができた。デイジー図書も永山図書館でしか受付

していなかったのが障がい者サービスの利用を全館で受け付けることができた。明らかに成果である。

会長 「ハロウィンおはなし会」の来館者数は、富沢家の来館者数か？
図書館長 富沢家の中に中央図書館のPRの掲示と中央図書館ができたらどんなことがしたいかというメッセージを書いてもらうボードを置いた。そのメッセージの数である。いらした方の中には、中央図書館ができることを知らなかったとか本館があることを知らなかったというやりとりもあり、PRになった。

会長 基本目標（2）は3項目が新規項目である。（③⑤⑥）
図書館長 ④事前アンケート結果、「利用したい」という施設は多かった。

会長 事前アンケートは16施設を対象としたのは、なぜか。

図書館長 回答いただいた施設が16施設である。全認可施設に照会したが、何施設に実施したのかは確認する。

副会長 アンケートの質問用紙もあるといい。

委員 図書館の支援団体が増えることはよいことだと思う。続けてほしい。

委員 おはなし会を今後も広くやっっていこうというならば、今のままではちょっと厳しいのではないかと思う。意欲があっても人手が足りない中でできないのではないか。ボランティアの組織をちゃんとするか、図書館の人をきちんと配置するかしないと、これ以上は無理ではないか。

会長 図書館出張おはなし会を実施した。アンケートの結果、参加者、施設、協力ボランティア団体のいずれからも好評であった。とあるが、アンケート結果はあるのか。

教職員向けに図書館の利用案内を配付した、自己評価にPRすることができたとあるが、配っただけではないか。フィードバックはあったのか。そういう表記が必要ではないか。学校図書館への団体貸出数は数値としてでるのではないか。

図書館長 アンケートは実施しており、実施結果に書き漏らしてしまった。

図書館が狙っているのは、一般教員である。ので、まず個々の教員に案内を配付した。令和3年度から実施している。継続実施である。

事業計画が実施することを目標としているため、そのような書

き方になった。何をもとめて実施しているかを念頭に実施すべきだった。

副会長 ⑨利用案内を配付とある。配付が目標である。自己評価にPRできたではなく、配付できたでよかったのではないか。今後の目標として、配付したということと効果があったら、書けばよいのではないか。

委員 電子書籍の児童向けの初級の多読本は利用があったのか？あまり認知されていないのではないか。

図書館長 多読本の利用はある。数値として出すこともできる。

副会長 自己評価は「・」になっているが、自己評価も①などと表記したらどうか。

新しく図書館ニュースを新たに発行し、配付した。この自己評価の書き方はよいと思う。

会長 ブックリストの改定の頻度は、1学年ごとに改定しているのか。

図書館長 ずっと改定できていなかったもので、計画的に毎年度改定している。経緯は確認し報告する。学校図書館司書の意見も聞いている。計画通りに進んでいる。

副会長 ⑦連携について、自己評価をみると着実な連携に向けての動きができた。次に何をするか約束はあるのか。

図書館長 次はブックリストを作成する。発達支援室の意見は聞く。

副会長 継続的な連携をするのがいいのではないか。そのあたりの経緯を書いてあるといいのではないか。

図書館長 ひまわり教室の保護者に図書館の案内を直接できたらいいのではないかとやりとりがあり、保護者会に参加することができた。

副会長 今後のことを評価にいたらいいと思う。

会長 報告1 多摩市立中央図書館の開館について説明をお願いする。

図書館長 資料2-2 多摩市立中央図書館の開館についてである。7月1日に中央図書館が開館し、利用状況などをまとめた。1開館後の利用状況は、7月1日から19日までをまとめたものである。6日は休館日となっている。(1)来館者数は88,845人である。今まで来館者数は数値として取っていなかったが、中央図書館では数値を取ることができるのでグラフで表示した。開館2日間は11,000人の来館者があった。その後の土日祝日は6,000人

くらいである。平日に関しては、平均3,000人である。土日の推移を見ていくと、少しずつ減っている。(2)貸出者数は14,972人である。こちらもグラフを見ていただくと1日・2日は来館者数の約1割の貸出者数である。それ以降の日は来館者数の1割から2割の貸出者数である。この数値が来館者に対して高いのか低いのかはわからないが資料の貸出だけでなく、席の利用目的の方も非常に多い。貸出に関しては、セルフ貸出機を導入しており、関戸図書館と永山図書館にも既に導入しているので混乱なくスムーズに貸出されており、予約本の受け取りもできている。(3)貸出冊数は37,385冊であり、本館の時と比べると約2倍の増加となっている。(4)新規利用登録者数は3,064人であり、これまでに3,000人の新規登録があり、全館で5,861人とかなりの新規登録が多く、職員の手によって登録をしているのでカウンターに列ができるといった状態である。徐々に落ち着いてきている。傾向としては、2年以上貸出実績がなかったり、有効期限が切れていたりして、久しぶりに図書館に来たという方たちが多くみられる。継続的に図書館を使っていたかというところが重要だと思う。2開館式典は7月1日に実施をみなさんにも出席いただいた。3開館記念イベントは7月19日までに実施したものである。図書館主催のイベントで講演会を4つ実施した。定員に対して申し込みが多く、抽選を行ったが、キャンセルや当日いらない方もいたので参加人数はお示しした通りである。次に展示であるが、「歌川広重」の展示は非常に好評で初日と2日は800人から900人の来場があった。期間中の合計としては3,362人である。また、ステッププラザに本の展示をし貸出もできる状況にしているが、そこで本を読んでもらったり、雑談をしたりといった使い方をしている。(2)各イベントの詳細は①開館直前イベントで辻村さんのトークイベントでした。トークイベントなので、わたくしの方から質問をして回答いただくといった内容である。小学生から中学生までの参加者4名に直接質問をしてもらおうというコーナーを設け、参加した子どもたちも非常に感激をしていた。②開館記念講演は柳田さんに基調講演を行ってもらった。こちらでは、子どもの時からの絵本との触れ合いが非常に重要だというおはなしが中心であった。③開館記念講演は気象予報士の方に講演をしていただき、講義を受けて、そのあと公園で野外活動をするというものでこの図書館の立地に合わ

せた講演ができた。④「ことばで遊ぶ、ことばを愉しむ」は年配の参加者が多かったがそれぞれ回文を作るということでワークショップ的な内容もあり、非常に楽しんで講演を受けている感じであった。⑤歌川広重の講演についてもアンケートでは非常に満足といったお声をいただいている。その他連携イベントについては7ページである。市民のみなさんからはイベントアイデアを募集して図書館といっしょに実現しようということでイベント募集をしており、そのイベントは今後7月8月も実施し終了したものもある。このあともさらにイベントがあり、図書館開館50周年イベントを10月から12月で行う。

- 会長 来館者数の予想はどうか。
- 図書館長 非常に多くの方に来館していただいている。
- 会長 1年間開館すれば、100万人いくのではないか。
市民の感想はどうか。
- 図書館長 過ごしやすいといわれている。いろいろな場所に幅広い層の方が自由に本を読んでいるという姿が印象深い。
若い人が勉強する場がなかったんだなと思った。
- 委員 図書館が若い人の居場所になるというのは、いいと思う。
いろんな場所に幅広い層の方が自由座っているというが、お年寄りも階段などに座っているのは、好き好んで座っているのではなく、若い人が椅子に座っていて椅子がないから、階段に座っているのかもしれない。
1階の書棚がくらいという声を聴く。光が当たっていないところでは字が見えない。
車いすのひとは通りにくのではと思うところがある。
おはなしの部屋は外が丸見えで不評である。スクリーンを下げて外が見えて気が散る。よく考えられていないと思う。
子どもの本のコーナーで、本の場所を示すのに大人なら「あ行」とか「か行」とか書けばいい所だが、子どもなのでひらがなで「あぎょう」とか「かぎょう」とあるが、全部同じ大きさと同じ色の字で書かれているので、何のことかわかりにくい。子どもの本に限らず、本がどこにあるかがわかりにくい。遠くからでもわかるようにするとよい。パンフレットを見ても、どこになにがあるか、番号が書いていないのでわかりにくい。
- 図書館長 照度は足りている。
ある程度使用いただければ、慣れていくのではないかと思う。
様子を見ながら、表示は足している。表示ばかりにはしたくない

い。
パンフレットなどで、書架の配置がわかるようにしていくべき
だとは思う。

現在模索中である。

すべては難しいが反映できるようにしていきたい。

利用者の声を聴く箱は設けている。フィードバックは返して
ほしい人は市政への意見に書いていただいている。回答を求め
ない方は図書館独自の様式に記入いただいている。

会長 できるのであれば、回答を掲示するのもいいかもしれない。
(可視化する)

会長 すべての議事は終了した。
 本日の第2回定例会は終了する。